

〔一〕

號二十六千九

(日曜金)

新聞 每 城 譲

日十月一年六十和昭

(可認物便郵種三第日二十二月四年十正大)

磐城毎日新聞

連続異説赤穂浪士
桃川若喬

一四
四
五
六
七

エフキス光線科
院長安藤徹
外科・内臓外科
門白土醫院
平市田町電五七九



野澤武藏

小名瀬町と玉川村の合併案は地理的を見て、何人も肯向し、聽く處に依ると、反対を稱する自然の歸結と思ふが、何故に玉川側部落に合併反対運動が行なはれてゐるか? 對立する行爲は相互に戒むべき事柄であり、村会議員であつて玉川側部落に合併反対運動を行なつたのが、玉川側の最も大切な合併審議會にて、故意に飲食、十名の村會が満席である。玉川側も一處になると云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

野澤武藏

世の中には「唯はず嫌ひ」など云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

今では至極圓滿である。玉川側も一處になると云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

「オヤ傳さんを殺した……」

「あり合ふ盆を取つて打ち

付けたから。」

「さうぢやないよ、お伯父さ

を被つた。」

逃げ出さうとする、狭い

「イエ、脇切ぢやアあります」

と云ふのが非常に多い、玉川の反対運動もこれに近いものであるまい。平市と平瀬郡敷設の事で傳五郎の死骸に頸の暴行があつたとか、齊藤吉に殺されたり、火薬を投石するなどの非合法で……のとなり組精神に依つて膝つき合せ圓満に妥協すべきである。

云ふ傳五郎の聲においては目を見た。見ると傳五郎が理吉に鎌で殺されてゐる。

「オヤ此子は飛んでもない。」

